

式 辞

春爛漫、桜花咲き誇り、若葉の光も、一段とさわやかさを増し、新入生のみなさんを、心から、歓迎してくれています。

新型コロナウイルス 対応のため、来賓のご臨席及び在校生の出席もかなわない入学式となりました。

しかしこのように、令和三年度、第七十一期生の入学式を挙行できますこと、心から感謝し、厚くお礼申しあげます。

さて、新入生のみなさん、ご入学おめでとう。今日から伝統ある玉出中学校の生徒です。

今、壇上からみなさんの顔を見ていると、どの人の目も清らかに澄み、「さあやるぞ」という強い意思が伝わってきます。その目が語っている今のみなさんの心の姿を「初心」と言います。どうかその初心を大切にしっかりと前を見つめて中学校生活を始めてください。

本校入学を契機として、新しい自分を探す旅の始まりです。中学の3年間を、実りあるものにするために、一日一日を大切に過ごして欲しいと願っています。

そこで、入学に当たり二つのことをお話ししたいと思います。

1つ目は、不思議な竹のお話です。中国には不思議な竹があるそうです。

その竹は、農家の人たちが種を植え、肥料と水を与えて育てるそうです。ところが、一年目は、何も起こりません。二年目も一生懸命、水と肥料を与え続けるのですが、芽すら出さず、土も膨らまず何の変化もありません。三年目も四年目も何も起こりません。

しかし、五年目のある雨の日の明け方を境に、突然成長を始め、わずか六週間で二十七メートルの高さにまで成長します。

みなさんもこの竹に似ています。

みなさんの将来にはいろいろなことが用意されています。この竹のようにある時期を境にすさまじい勢いで、みなさんの才能が花開く時期がきつとあります。

しかし、やってもやっても何も起こらない時期もあります。目には見えませんが、その時こそ、地面の下では、将来の成長に備え、下へ下へと根を生やしているのです。

この根のことを昔の人は「命の根」と言いました。これから始まる中学校時代は、みなさんの「命の根」をしっかりと下へ伸ばす時期とも言えます。

「あなたの心の庭に忍耐を植えなさい。

その根は苦いが、実は甘い」という言葉があります。

これから始まる中学校生活は、楽しい事ばかりではありません。我慢したり耐えたりしなければならないこともたくさんあります。

しかし、その時こそ、みなさんの「命の根」がしっかりと伸びている時だと自覚してください。困難から逃げてばかりいたらこの根は育ちません。せつかくのみなさんの才能も枯れてしまいます。

ある日を境にすさまじく成長するその時まで、忍耐と我慢という栄養を、蓄える努力を続けてください。

二つ目は、君たちの顔がひとり一人、違うように、考え方や、体つきも違っています。

体の丈夫な人・障害のある人・力の強い人・弱い人、いろいろな、個性のある人が集まって、学習するところが、この玉出中学校です。相手のことを考え、行動できる生徒に育ってほしいと願っています。

「自分を大切にし、そしてあらゆる人を大切にできる自分」をつくりましょう。

今日からみなさんは「人にやさしい学校、人にやさしい心」を育てるために、在校生のみなさんと、一緒に取り組んでいきましょう。

保護者のみな様、私は目標として「人にやさしい生徒・人にやさしい玉出中学校」づくりを目指し、積極的に取り組んでまいります。

そして、本校職員と一丸となって、学力の向上に努めてまいります。しかしこれは、保護者のみな様のご協力なくしてはできるものではありません。どうぞ、絶大なるご支援をお願いいたします。

教育は、林業に似ています。一年で、花や実のなる農業とは違い、一〇年先、二〇年先になるかは個人により違いがありますが、まっすぐ立派な木として成長することを願う作業です。

学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちが心身ともに堂々とした大木になるよう、ともに育てていきましょう。よろしくをお願いいたします。

簡単ではございますが武辞といたします。

令和三年四月六日

大阪市立玉出中学校

校長 村瀬香織